

子育てしやすいまちを話し合い

18日、杉並区役所では、杉並区長と20・30代の区民21人が、子育てしやすいまちについて意見交換を行いました。この集会は、「すぎなミーティング」と名付け、今年度から若者世代の意見を区政に反映するため開催しているもので、今回が3回目となります。

平成27年度に、区民から区政に寄せられる意見・要望は約600件でした。人口規模の56万人を考えると、1000分の一にも満たない件数です。また、区長は地域団体が主催する会合やイベントに顔を出し、その際に様々な意見を伺っていますが、こうした団体に属さない一般の区民の声を直接伺う機会を作ることができないかと検討してきました。

そこで、区になかなか届きづらい一般の区民の意見を聴いて、その意見を区政に反映するため、今年度から始めたのが、「すぎなミーティング」です。今回が3回目となりますが、一般の区民の方の中でも、特に若者世代にスポットを当てて開催しています。第1回は大学生を対象に起業やまちづくりのことを、第2回は高校生と選挙や地域との関わりのことなどについて意見交換を行いました。

区への意見・要望の600件を年代別に見ると、最も多いのは30代です。20代以下がわずか20件なのに、30代からは100件あまりの意見・要望が寄せられています。その多くは、都市部の問題としてクローズアップされている保育所の整備などに関するものです。杉並区でも、昨年4月に「すぎなみ保育緊急事態」を宣言して、待機児童対策に取り組んでいるところで、こうした取り組みのことや子育て全般に関する様々な意見を聴くことを想定し、第3回のテーマは、「みんなで考える子育てしやすいまち」としました。



18日午後1時30分から区役所では、第3回の「すぎなミーティング」が開催され、22歳から39歳の無作為抽出した21名（男7名・女14名）が参加しました。区長や子育て部門の管理職も加わり、前向きな議論は2時間ほどに及び、参加者からは、「子どもが体調を崩したときの預け先として、近所のおせっかいおばさんがいて欲しい」「今日、保育園のママと幼稚園のママでは、持っている情報がまったく違うことがわかったので、このママ同士をつなぐことで、子育てしやすいまちがつかれないか」などの意見が出されました。

【問い合わせ先】

総務部区政相談課：03-3312-2111 内線1121